



# 清水町 町勢要覧



Shimizu Town Handbook



HOKKAIDO TOKACHI SHIMIZU

# 想いを

# ミライに繋ぐまち、

つな

# 清水町。

町長からのメッセージ  
清水町開拓の礎は  
近代日本経済の父 渋沢栄一  
「十勝開墾会社」の史跡

## 目次

03 町長からのメッセージ  
04 清水町開拓の礎は  
05 近代日本経済の父 渋沢栄一  
06 「十勝開墾会社」の史跡

清水町が目指すまちの将来像は、  
先人より培われた資源や歴史を大切にし、

ひととの絆やつながりがあふれ、  
これまで、これからも住み続けたいと思えるまち。

その想いを持ちながら、  
町の発展につながる取り組みを

ミライにつなげていく  
まちづくりを進めていきます。

## Shimizu – a town linking its visions with the future

Shimizu's visions for the future are to value the resources and history cultivated by our predecessors, to create a town brimming with bonds that unite its people; a town in which we all want to continue living. With this in mind, we continue to promote town planning that will lead to future development of the community.

清水町は北海道・十勝平野の西部に位置し、国道38号と国道274号の2本の国道が交差しており、道東自動車道のインターチェンジやJRの駅を有するなど、道東の玄関口と呼ばれる、酪農と畑作が盛んな農業の町です。

1903年(明治36年)に人舞村外一ヵ戸長役場が開庁、1927年(昭和2年)に「清水村」と改め、1936年(昭和11年)町制を施行し「清水町」に、1956年(昭和31年)には御影村と合併し、現在に至っています。

町名「清水」の由来は、アイヌ語で「明るく清らかな川」を意味する「ペケレベツ」を意訳したものです。



## 清水町 はこんなまち

清水町は北海道・十勝平野の西部に位置し、国道38号と国道274号の2本の国道が交差しており、道東自動車道のインターチェンジやJRの駅を有するなど、道東の玄関口と呼ばれる、酪農と畑作が盛んな農業の町です。

1903年(明治36年)に人舞村外一ヵ戸長役場が開庁、1927年(昭和2年)に「清水村」と改め、1936年(昭和11年)町制を施行し「清水町」に、1956年(昭和31年)には御影村と合併し、現在に至っています。

町名「清水」の由来は、アイヌ語で「明るく清らかな川」を意味する「ペケレベツ」を意訳したものです。



## ACCESS

**飛行機**  
・東京(羽田空港) 約90分 とかち帯広空港  
・とかち帯広空港 車で約1時間10分 清水町

**JR**  
・札幌駅 (特急)約2時間10分 清水町  
・帯広駅 (普通)約40分 清水町

**自動車**  
札幌南ICから約2時間  
・札幌市 (市内中心部から約2時間30分) 清水町  
・帯広市 約40分 清水町  
・富良野市 約1時間30分 清水町  
・旭川市 約2時間30分 清水町



清水町長

阿部 一男

清水町の歴史は、1898年(明治31年)、渋沢栄一翁が中心となつて設立した十勝開墾合資会社によって開拓の鍵がおろされたのが始まりとされ、1903年(明治36年)に人舞村外一ヵ戸長役場を開庁、2022年(令和4年)には開町120年を迎えました。現在、第6期清水町総合計画に基づき、まちの将来像『まちに気づくまちを築く』とまち清水く想いをミライに繋ぐまち』を目指して、まちづくりを進めています。

人口減少時代の中、町民の皆様が住み続けたいと思える町として、基幹産業である農業振興、子育て支援や健康増進、雄大な自然を生かした観光振興、第九合唱などによる文化振興、アイヌホッケーを活かしたまちづくりなどを推進し、郷土愛の醸成を図ってまいります。

また、2021年(令和3年)には「ミライに繋ぐゼロカーボンとかち清水」を宣言しており、持続性のある地域脱炭素社会の実現を目指しながら、次代を担う子どもたちに誇れる町を築いていきます。



町の木  
「ななかまと」

Shimizu Town Tree  
Rowan

町の花  
「すずらん」

Flowers of Shimizu Town  
Lily of the valley

町の鳥  
「うぐいす」

Birds of Shimizu Town  
Warbler

## CONTENTS

- 03 A message from the mayor
- 04 Shimizu Town and Shibusawa Eiichi
- 05 Historic sites
- 06 Agriculture
- 07 Commerce & industry
- 08 Childcare & education
- 10 Town planning
- 14 Shimizu's history

子どもを安心して産み・育てられるまち  
ミライにつなぐまちづくり

しみずのあゆみ

08

07

06

05

04

03

農業は命の源、大地の実りを未来へ紡ぐ

子育てと教育

08

07

06

05

04

03

清水町開拓の礎は  
熊牛地域に残る「渋沢栄一」

近代日本経済の父 渋沢栄一

「十勝開墾会社」の史跡

05

04

03

# 清水町開拓の礎は、近代日本経済の父、渋沢栄一

## 十勝開墾会社農場を 熊牛地域に設立

1897年(明治30年)渋沢栄一ほか10名が十勝川沿岸の約3500万坪(11660ヘクタール)の貸付を出願。1898年(明治31年)に、この内、熊牛・人舞・毛根原野の約8142ヘクタールの貸付許可を得て、出資社員25名、資本金100万円で十勝開墾会社(後の十勝開墾株式会社。以下、十勝開墾会社という)が設立されました。

初代社長には、渋沢栄一の従兄弟の渋沢喜作が選ばれ、渋沢栄一は業務執行役員となりました。初代農場長には近代酪農を伝えた町村金弥が就任しました。

同年、石川県・福井県出身者ら26戸99人が、農場に入植し初めて開拓が始まり、以降毎年入植者を増やしていました。しかし、交通の不便、気候の寒冷、物資流通の困難などの要条件により、移住者も目標に達せず、離散する者もありました。これにより、会社は存続の危機に立たされました。が、農場の実質的創業者である渋沢栄一の事業にかけた意志は固く、資本金の減額や事業の縮小を図るなどの再建計画を重ねました。

その後、1907年(明治40年)中央鉄道(現根室本線)の開通を転機とし初の収益を挙げ、三代目農場長吉田嘉市の代で本格的な農場改革が行われ、1912年(明治45年)に約4300ヘクタールが北海道から付与されました。付与地は現在の清水町の面積の約10%にあたります。

会社は、地域の教育・宗教施設にも貢献し、熊牛小学校・松沢小学校・人舞小学校、北熊牛小学校の建設にかかる資金や資材を寄附したほか、学校運営費も寄附しました。

開墾地2767ヘクタール、小作農



当時の十勝開墾会社事務所

## 渋沢栄一の縁を まちづくりに



渋沢栄一生誕の地である埼玉県深谷市をはじめ、東京都北区や板橋区などのゆかりの地と、物産販売による経済交流や、町民ツアーディの訪問、小学校同士による交流などをを行い、まちづくりにつなげています。

Tokachi Land Reclamation Company established in the Kumaushi district.

In 1898, Shibusawa Eiichi was forefront in the establishment of Tokachi Land Reclamation Company in what is now the Kumaushi district of the present-day town of Shimizu. Subsequently, reclamation of the land began, but the cold climate, difficulties regarding the distribution of supplies, and other adverse conditions caused a dispersal of the workforce, threatening the future of the company. However, Shibusawa was determined and, as a result of a series of restructuring plans, the company achieved its first profits in 1907. The company also contributed to local education, providing funds and materials for the construction of schools. Subsequently, the company - which had developed 2,767 ha of reclaimed land and 359 tenant farms - transferred its management rights to the Meiji Sugar Company in 1924, after which it focused on providing farmland free of charge to tenant farmers, subdividing its farmland and eventually dissolving the company in 1934, when it was sold to Meiji Sugar.

## 熊牛地域に残る 「渋沢栄一」「十勝開墾会社」の史跡

渋沢栄一及び十勝開墾会社は、地域の小学校の建設をはじめ、大勝神社や青淵山寿光寺の建立に貢献するなど、地域の発展に寄与されました。現在でも熊牛地域にとって、渋沢栄一は地域の生活基盤をつくった先人として住民に親しまれています。

### 十勝開墾会社農場畜舎



十勝開墾会社が札幌農学校(現在の北海道大学)に設計を依頼建築したといわれています。1919年(大正8年)に建築した131坪(432m<sup>2</sup>)の建物は、当時としては理想的な畜舎で、開拓に使用する牛や馬が飼養されていました。現在は渋谷農場の牛舎として、今も1階は畜舎、2階は飼料庫として使用されています。

### 青淵山寿光寺



1918年(大正7年)富山県の僧、増山白渚(ますやまはくしょ)を招き、熊牛説教所として開基。1926年(大正15年)に「青淵山寿光寺」を公称し、十勝開墾会社から敷地や材料費、渋沢栄一からの寄附を得て、1929年(昭和4年)に寺院が建立されました。渋沢の雅号「青淵」を山号に戴いており、渋沢が1927年(昭和2年)に揮毫した直筆の扁額が掲げられています。また、敷地には三代目農場長の吉田嘉市の墓碑が建立されています。

### 大勝神社



1911年(明治44年)十勝開墾会社が敷地や工事を投じ、本殿を造営。翌1912年(大正元年)に拝殿を造営し、新元号の大正の「大」と十勝の「勝」から大勝神社と名付けられました。札幌神社(現在の北海道神宮)から大国魂神(おおくにたまのかみ)ほか2神の分霊を請い、祭神としています。2012年(平成24年)創祀百年を記念し改修されました。

### 熊牛百年拓魂之碑・開拓70年記念碑



十勝開墾会社により、開拓の一歩が踏み出された熊牛地区は、1996年(平成8年)に開拓100年を迎えました。「熊牛百年拓魂之碑」は熊牛地域開拓百年記念事業協賛会によって、旧十勝開墾会社の本家屋があった地区であり、また旧河西鉄道熊牛駅付近の地に設置されました。「開拓70年記念碑」は、1964年(昭和39年)に大勝神社の境内に建てられましたが、熊牛地域開拓百年の際に拓魂之碑の隣に移設されました。

Legacies of Shibusawa Eiichi and the Tokachi Land Reclamation Company that remain in Kumaushi  
Shibusawa Eiichi and the Tokachi Land Reclamation Company contributed to the development of the Kumaushi area, including the construction of schools and the establishment of the Taisho Shrine and Seienzan Juko-ji Temple. Even today, the company's farm barns are still used as cowsheds in the region. A monument has also been erected to commemorate the area as the place where the first steps in the development of the town were taken.

〈Tokachi Land Reclamation Company farm barns〉 〈Seienzan Juko-ji Temple〉  
〈Taisho Shrine〉 〈Kumaushi Centennial Monument/70th Anniversary Monument〉



渋沢栄一  
(1840年~1931年)

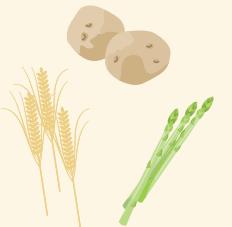
現在の埼玉県深谷市の農家に生まれる。一時江戸幕府に仕え、使節団としてヨーロッパで経済について学び見分を広める。帰国後、明治新政府で大蔵省などに勤め、世界遺産となった富岡製糸工場の設立に尽力。第一国立銀行(現みずほ銀行)をはじめ、約500社の企業設立や経営に関わったとされている。清水町開拓の歴史に深く関わっている十勝開墾会社もその一つ。渋沢は近代日本経済の父とも呼ばれており、2024年(令和6年)発行予定の新1万円札の肖像画に選ばれている。

※写真提供:埼玉県 深谷市



# 農業

農業は命の源、  
大地の実りを未来へ紡ぐ



雄大な十勝の大地で育まれてきた清  
水町の基幹産業である農業。

町村別農業産出額は、令和元年度か  
ら2年間連続で260億円を超えてお

り、生乳生産量も酪農業の規模拡大に  
よって、平成22年に初めて10万トン  
を突破。令和元年度には14万トンを  
超えています。

畑作は、イモ類、豆類、小麦、ビート  
のほか、アスパラ、ブロッコリー、白菜  
などの野菜栽培も増えてきており、近  
年では新たな十勝清水ブランドとし  
てんにく栽培にも、まちぐるみで取  
り組んでいます。

畜産では乳用牛の占める割合が多  
く、同牛の産出額では平成30年から  
3年連続で全国トップ5入りを果た  
しています。さらに、肉用牛の育成も  
盛んに行われ、JA十勝清水町の「十  
勝若牛」をはじめとしたブランド牛が  
全国に出荷されています。

農畜産物の安定供給と経営の安定  
強化を図るため、JA十勝清水町など  
関係機関と連携しながら、農地の基盤  
整備やスマート農業の導入、担い手確  
保対策のほか、農副産物を利用したバ  
イオガスプラントの推進など、循環型  
農業の構築にも取り組んでいます。



# 商工業

企業・商店が  
人をつなぎ、まちを照らす



## 町民を笑顔に！



清水町商工会では「まちを元気にした  
い！」、そんな想いから、さまざまなイベン  
トを企画し、町民を笑顔にしています。

Bringing smiles to the faces of the  
locals!

The Chamber of Commerce and Industry aims to  
‘Invigorate the town!’ With this in mind, it plans a  
variety of events to bring smiles to the faces of  
the town’s residents.

Manufacturing and processing of products born from  
resources with which the town is blessed

The town’s commerce and industry have developed mainly in the manufacturing and  
processing industries related to agriculture. Value-added products are produced  
from the resources with which the town has been blessed. In cooperation with the  
town’s Chamber of Commerce and Industry, work is being carried out to promote its  
specialty products, revitalize the shopping district, establish a stable management  
base for businesses, train human resources, and provide support to entrepreneurs.

## 恵まれた資源から 生み出される産業

清水町の商工業は、農業に関連する  
製造・加工業を中心発展しています。  
ホクレン清水製糖工場、日本甜菜製  
糖清水バイオ工場、清水紙筒工場、ブリ  
マハム北海道工場など大手の工場のほ  
か、農畜産物を加工・商品化する企業  
など多彩です。恵まれた資源に付加価  
値をつけ、清水町ならではの商品を製  
造し消費者へ届けています。

町と清水町商工会が連携し、特産品  
のPR、商店街の活性化、事業者の安  
定的な経営基盤の確立、雇用の安定を  
図るための人材育成、起業者への支援  
などに取り組んでいます。



## Delivering safe and secure foodstuffs to the nation

Agriculture is the key industry of the town. Dry-field crops include potatoes, beans, wheat and beets, as well as  
an increasing number of vegetable crops such as asparagus, Chinese cabbage and, in recent years, the  
cultivation of garlic. With regard to livestock, dairy cattle account for a large percentage of the total, and the  
rearing of beef cattle is also a sector that is flourishing. In future, in cooperation with the agricultural  
cooperative and other related organizations, work to establish a circular agriculture system will continue, by  
means of improving farmland infrastructure, introducing smart agriculture, securing human resources to farm  
the land, and promoting biogas plants that utilize agricultural by-products.

## INTERVIEW



商売でまちを盛り上げたい 若い人たちが起業できる環境を

辻屋精肉店は昭和2年に創業、私で4代目となります。「これは美味しい！」と自分  
がこだわった商品をお客様に提供したいという想いを持ちながら経営しています。  
近年は、以前に比べて味付けした商品が売れており、お客様のニーズの変化を感じ  
ています。

清水町には、まちの将来を真剣に考えている人が多いと感じており、私も日頃から  
「商売でまちを盛り上げたい」と考えています。清水町で育った子どもたちが故郷を  
離れ、将来、帰ってきたときに、働く場所があること、それから起業できる環境の整  
備が必要です。私も起業家の皆さんを応援していきたいと思っています。

(株)辻屋精肉店 代表 辻屋 裕康さん

**pick up**

じみずマルシェ 11月23・24日

商店街がまるごと市場に!  
「じみずマルシェ」

清水町商工会では町民に商店街  
へ足を運んでもらおうと、毎月月  
末頃に商工会加盟店舗が期間  
限定のお買い得品や特別企画を  
実施しています。

## INTERVIEW



循環型農業の未来にも期待 住みやすく魅力のあるまち

畑作農家の後継者として、小麦やビート、豆類、ブロッコリー、白菜のほか、近年では  
十勝清水にんにくの栽培にも挑戦しています。消費者と直接つながりたいという思  
いから、トラックマーケットへの参加やオンラインでの野菜販売などにも力を入れ  
ています。町では酪農業の副産物を活用した有機肥料の販売やバイオガスなどの  
取り組みを行っているので、将来的な循環型農業にも町民として期待しています。  
清水町は交通の利便性もよく、子どもの医療費無料化など子育て支援も充実して  
いて住みやすい町。今後も町外にまちの魅力を発信して、移住定住につなげていっ  
てほしいと思います。

(株)SAWAYAMA FARM 代表 澤山 直樹さん

## pick up



清水町がにんにくの  
新たな産地に！  
「十勝清水にんにく」

JA十勝清水町が独自に開発した  
ウイルスフリー苗によるにんにく。  
品質、香りとも良く様々な料理に  
合い、全国に出荷されています。

# 子育てと教育

子どもを安心して  
産み・育てられるまち



## まちぐるみで 子育てを応援

清水町では、妊娠、出産、子育ての時期を通して、妊産婦への各種助成、出産祝金の支給、子どもの医療費無料化、子育て用品の無償貸し出し、地域の子育てのサポートシステムなど幅広い支援制度により、子育て家庭を応援しています。出産や子育ての不安を気軽に相談できる子育て世代包括支援センターを設置し、子育て環境の充実にも努めています。

また、清水・御影地区にはそれを認定こども園が整備され、質の高い教育や保育の提供をするとともに、3歳未満児の第2子以降保育料の無償化、給食の無償化などを実行っています。



子育てガイドブック  
地域の温かい手を借りながら楽しく子育てできる情報を紹介!

## 個性を伸ばし 郷土愛を育む

平成18年に、家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで子どもを育てる実践指標として「しみず教育の四季」を宣言しています。

小中学校においては、将来を見据えた生きる力を身につけさせることを目指し、小学校低学年では少人数学級を取り入れるなど、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、個性を生かす学びの充実に取り組んでいます。

また、故郷・清水町の歴史や文化、産業を体験的に学び、生涯を通して町とつながる育成を目指す「十勝清水学」を推進しています。令和7年度、小中一貫教育の本格実施に向けて準備を進めています。町には、道内で先駆けて総合学科となった北海道清水高等学校があり、町内外から多くの生徒が通い、専門的知識を学んでいます。

## Developing individuality and a love of one's hometown

The Town has issued a 'Four Seasons of Shimizu Education' declaration to indicate that families, schools and communities are working together to help raise children. In the lower grades of elementary school, small class sizes have been adopted, and efforts are made to enhance learning that makes the most of individual characteristics. Education that enables students to learn about the town's history and industry through hands-on experience is also promoted. Located in the town is Shimizu High School, which is attended by many students from the town and beyond.

振興会を通じて、生徒の資格検定、模擬試験にかかる費用や学習用タブレット購入経費の助成のほか、ICTを活用した授業への支援、清水高等学校の魅力を町内外に発信する事業などを支援しています。

### 清水高等学校振興会への助成



Aid for the Shimizu High School Promotion Association

経済的理由で高校や大学への就学が困難な学生に対して、学費を無利子でお貸ししています。入学金30万円、修学金月額5万円(高校生は1万円)を限度に、随時貸し付けを行っています。卒業後、町民となり5年以上就業し、その後も就業する意思のある方には償還を免除しています。

### 奨学金の貸し付け



Scholarship loans  
Subsidies for school excursions and the like

## 教育支援



保護者の経済的負担を軽減

修学旅行費などの助成  
減を図るため、小中学生の修学旅行費の全額助成、スキーリンゴー授業に係る経費及び小学生自転車通学用ヘルメット代の助成を行っています。



子育てサポートしみず  
子どもの預かりや送迎、産前産後の家事のサポートなど、子育ての援助を受けたい人(依頼会員)と、子育ての援助をしたい人(提供会員)をつなぎ、地域における子育ての支えあいシステムを構築しています。

### 子育て用品の無償貸し出し



Child-rearing support Shimizu

子どもが安心して医療を受けられるように、18歳までの子ども全員にかかる医療費(保険診療分)を助成しています。

### 子どもの医療費無料化



就学前のお子さんの保護者及び養育者に、チャイルドシート・ベビーカー・ベビーラックなどを無償で貸し出しています。

お子さんの健やかな成長と子育てを応援するため、出産祝金として現金及び町内商店街で利用できる商品券を支給。第1子には10万円、第2子には30万円、第3子以降には50万円をお渡ししています。

## 出産祝金



清水でのびのびすくすく

# 子育て支援

3

## 福祉 Welfare



さんさんカフェは現在町内3会場で行われており、毎回10名程度が参加されています

### Enhancement of welfaresupport

The Town promotes the enhancement of welfare services for the elderly, such as preventative care and the like, and provides multi-faceted support in the form of disability and child welfare. It will keep providing warm support so that people can continue to live with peace of mind in neighborhoods with which they are familiar, even in old age.

清水町では高齢者福祉が重要性を増す中、老後も不安なく過ごすため、介護予防など高齢福祉サービスの充実を進めているとともに、障がい者福祉や児童福祉など様々な面から支援を行っています。

認知症の人やその家族・地域住民など誰もが集まる場所、しみずほととサロン「さんさんカフェ」は、町内の喫茶店などを会場に、ゲームやレクリエーションを楽しんだり、軽食を取りながら交流しています。

また、町職員による相談も受けしており、老後も住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる温かい支援に取り組んでいます。



保健師や栄養士による健康相談や保健指導等が行われています

### A well-developed healthcare system

Efforts are being made to increase awareness of health-related issues such as dietary habits and exercise, in a bid to increase the healthy life expectancy of the town's residents. In addition, medical institutions in the town are working together to improve consultation rates, which leads to early detection of diseases.



## 4 健康 Health



清水町は健康寿命の延伸に向けて、町民一人ひとりの健康への関心を高め、食生活や運動などの生活习惯の改善につながるような取り組みを進めています。

町内の医療機関と連携を図りながら、特定健診、後期高齢者健診及び早自健診の自己負担額の無料化を実施し、受診率の向上に努め、生活習慣病の予防や疾病の早期発見につなげています。

また、町民の健やかな暮らしを守り医療保障を推進し、地域になくてはならない医療機関の医療供給体制を維持していくための支援を行っています。

### 健康に暮らせる 医療体制の充実

## まちづくり ミライにつなぐ



### 町民が安心して 暮らし続けられる支援を



町職員の防災研修ではダンボールベッドと災害用テントの設営を体験

1

## 防災 Disaster prevention

### 備えを万全 災害に強いまち

清水町に甚大な被害をもたらした平成28年台風10号による大雨災害。被害額は農業など183億円のぼり、交通網の寸断や断水など日常生活にも多大な影響が出ました。

その時のことを教訓に、災害用備蓄品の充実、町内全戸に防災行政無線の配付、自主防災組織結成の推進などに取り組んでいます。

また、町民の防災意識向上を目的に、避難訓練や講演会を開催するなど、「いざというとき」の備えをまちぐるみで進めています。

For a disaster-resilient town

The town has previously suffered extensive damage from a typhoon and heavy rain. Learning from this experience, work is being carried out to enhance emergency reserves, distribute municipal disaster-management radios to all households in the town, and promote the formation of voluntary disaster-prevention organizations. What's more, evacuation drills and lectures are held to raise disaster awareness among the town's residents.



しみずっこ地域食堂の利用者の笑顔がボランティアさんの喜びにつながっています



## 2 地域 Area

### Community cafeteria

A community cafeteria is operated by an organization in the town. The cafeteria aims to provide a place where people can gather for meals regardless of their disadvantages, disabilities and the like. The foodstuffs are donated by businesses that support the organization's activities, and also collected from local residents. The cafeteria is fast becoming a new local community space.

清水町社会福祉協議会が、令和3年度から取り組んでいる「しみずっこ地域食堂」。食事を通じ、ハンディキャップや年齢の枠を越えて、自然と集える場所をつくりたいという強い想いからスタートされました。同食堂の食材は活動に賛同する企業からの寄附のほか、フードドライブを活用し、調理等にはボランティアの皆さんが携わっています。食事がつなぐ、コミュニケーションの絆は地域住民に親しまれる活動になっています。

### 集う・食べる・語らう 地域食堂

## 5 移住・定住 Immigration

つなぐ・つむぐ・つくる  
民泊を活用  
「まちまるごとホテル」

清水町では、移住・定住促進のため、マイホームの取得、住宅のリフォーム工事や太陽光発電システム導入等の助成のほか、移住者への賃貸住宅家賃助成など、各種支援を行っています。また、令和4年度に、民泊サイト「Airbnb Japan」(エアビーアンドビー・ジャパン)と包括連携協定を締結し、民泊を活用した地域経済の活性化策として「まちまるごとホテル」を進めています。清水町に滞在してもらい魅力を知つてもらうことで、町のファンをつくり、移住定住につなげるとともに、町内の空き家・空き地などの遊休不動産の活用や、民泊を絡めた新たな起業にもつながる期待しています。

各種移住・定住情報は  
こちらから



町移住体験住宅をリノベーションして  
民泊サイトに登録、利用者に好評です



### Utilization of private lodgings

To encourage migration and people to settle in Shimizu, the town provides subsidies for house purchases and renovations, as well as the installation of solar power systems. In 2022, the town also signed a comprehensive partnership agreement with Airbnb Japan, a website that specializes in temporary accommodation in private lodgings, and is promoting measures to revitalize the local economy through the use of such facilities.

## 6 観光 Sightseeing

### 十勝清水四景十 絶景スポット

自然豊かな清水町には、つい寄りたくなるほど、眺めのすばらしい場所がたくさんあります。特に、2010年(平成22年)に選定された十勝清水四景<sup>プラス</sup>十<sup>1</sup>は、清水町民もおすすめする絶景スポットで、年間多くの人が訪れています。



#### Scenic spots

The town of Shimizu boasts abundant nature and a wealth of spectacular scenery. In particular, Shimizu Park, Biman Panorama Park, Nissho Pass Observation Deck, Shimizu Maruyama Observation Deck and Tokachi Millennium Forest are all known as superb scenic spots.



美蔓パノラマパーク



日勝峠展望台



清水円山展望台



十勝千年の森(+1)

豊かな自然を生かした独創的な庭園。自然を感じられるセグウェイツアーや体験することができます。



### pick up



町公式Youtubeチャンネル「うっちゃんねる」で開町120年記念「十勝しみず第九演奏会」と御影地域のアイスホッケーの歴史などの動画をご覧になれます。

[清水町公式YouTubeチャンネル  
「うっちゃんねる」](#)

[開町120年記念  
「十勝しみず第九演奏会」](#)

[御影地域のアイスホッケーの  
歴史動画](#)

## 8 スポーツ Sports



### Ice hockey town

The Mikage district has been involved in the promotion of ice hockey for more than 90 years. As well as boasting an indoor arena, the entire community is involved in player development and community planning involving ice hockey. In recent years, the number of people moving to the Mikage district for ice-hockey-related reasons has been increasing.



### pick up



### 受け継がれる絆 アイスホッケーで

地域ぐるみで90年にもわたりアイスホッケーの振興に取り組んでいる御影地域。1992年(平成4年)には町村では全国初の屋内リンク場「清水町アイスアリーナ」が御影に完成。町内には小・中・高校生、社会人のチームがあり、同出身者からトップリーグやオリンピック選手なども輩出しています。

アイスアリーナの指定管理者である、NPO法人清水町アイスホッケー協会は選手育成を含め、アイスホッケーの振興によるまちづくりなどを、地域に根付いた活動を行っています。近年はアイスホッケー関連での移住者も増えてきています。



## 7 文化 Culture

町公式Youtubeチャンネル「うっちゃんねる」で開町120年記念「十勝しみず第九演奏会」と御影地域のアイスホッケーの歴史などの動画をご覧になれます。

[清水町公式YouTubeチャンネル  
「うっちゃんねる」](#)

[開町120年記念  
「十勝しみず第九演奏会」](#)

[御影地域のアイスホッケーの  
歴史動画](#)

1980年(昭和55年)12月に、文化センターのこけら落とし公演の一つとして開催された「第九交響曲演奏会」。合唱団264名の「歓喜の歌」は大きな感動を呼び、全国にも発信され、それ以後も、演奏会は令和4年度まで9回開催しています。

また、小・中学校でも第九をテーマとした授業が行われており、令和4年度には吹奏楽爱好者による「北海道十勝しみず吹奏楽団」が結成され、これまで培われてきた第九文化を継承、発展させていきます。

### 'Ninth' town

Every five years, a performance of Beethoven's Symphony No. 9 (Beethoven's 9th) is held in the town. Elementary and junior high schools offer classes on the theme of the symphony, which has taken root among the town's residents. In 2022, the Tokachi Shimizu Brass Band was formed, and the 'ninth culture' that has been nurtured to date will continue to be developed.



### pick up



### 受け継がれる絆 アイスホッケーで

地域ぐるみで90年にもわたりアイスホッケーの振興に取り組んでいる御影地域。1992年(平成4年)には町村では全国初の屋内リンク場「清水町アイスアリーナ」が御影に完成。町内には小・中・高校生、社会人のチームがあり、同出身者からトップリーグやオリンピック選手なども輩出しています。

アイスアリーナの指定管理者である、NPO法人清水町アイスホッケー協会は選手育成を含め、アイスホッケーの振興によるまちづくりなどを、地域に根付いた活動を行っています。近年はアイスホッケー関連での移住者も増えてきています。



## 7 文化 Culture

町公式Youtubeチャンネル「うっちゃんねる」で開町120年記念「十勝しみず第九演奏会」と御影地域のアイスホッケーの歴史などの動画をご覧になれます。

[清水町公式YouTubeチャンネル  
「うっちゃんねる」](#)

[開町120年記念  
「十勝しみず第九演奏会」](#)

[御影地域のアイスホッケーの  
歴史動画](#)



### pick up



### 受け継がれる絆 アイスホッケーで

地域ぐるみで90年にもわたりアイスホッケーの振興に取り組んでいる御影地域。1992年(平成4年)には町村では全国初の屋内リンク場「清水町アイスアリーナ」が御影に完成。町内には小・中・高校生、社会人のチームがあり、同出身者からトップリーグやオリンピック選手なども輩出しています。

アイスアリーナの指定管理者である、NPO法人清水町アイスホッケー協会は選手育成を含め、アイスホッケーの振興によるまちづくりなどを、地域に根付いた活動を行っています。近年はアイスホッケー関連での移住者も増えてきています。

# しみずのあゆみ

先人たちのたゆまぬ努力により、築き上げられてきた清水町。開拓の時から現在まで多くの困難に見舞われながらも、なお前を向いて歩んできた町の歴史を胸に、つながれた想いをミライへ引き継いでいきます。

## 開拓の黎明期

1867年(慶應3年)、徳川幕府が大政を奉還し、明治政府が誕生。それまで蝦夷地と呼ばれていた北海道は、松前藩が担当していた場所請負制による部分的開拓が始まっていました。明治政府は、1869年(明治2年)に開拓使を置き、本格的な北海道の開拓に取り組みました。

1886年(明治19年)には北海道による植民地選定事業が開始され、入植が奨励。こうした時代背景の中、1898年(明治31年)に現在の熊牛地域に十勝開拓会社農場が設立され、その後も、ベケレベツ原野・上芽室・羽帶・旭山地区、人舞地区、サホロ原野と入植者は増え続けました。

## 清水町誕生までの足跡

明治初年の清水町域は人舞村、芽室村、羽帶村からなっていましたが、1903年(明治36年)、人舞村に戸長宿場を設置。1907年(明治40年)には国鉄開通が進み、米づくりも盛んになりました。1915年(大正4年)に人舞村として2級村制が施行され、独立した自治体としての歩みが始まりました。



## SHIMIZU TOWN HISTORY 2002-2023

### 2002年(平成14年)

- 開町100年記念式典を挙行
- 清水町ハーモニープラザがオープン

### 2004年(平成16年)

- 小学校統廃合で町内の小学校は清水小・御影小の2校に
- 構造改革特区の認定を受け、清水小学校1・2年生を対象に少人数学級がスタート

### 2006年(平成18年)

- しみず「教育の四季」を宣言

### 2010年(平成22年)

- NPO法人清水町アイスホッケー協会が地域づくり総務大臣表彰を受賞

### 2011年(平成23年)

- 道東自動車道(十勝清水～札幌まで)全線開通
- 第5期清水町総合計画(H23～R2)を策定

### 2012年(平成24年)

- 開町110年記念式典を挙行

### 2015年(平成27年)

- 「十勝清水牛玉ステーキ丼」が新ご当地グルメグランプリ北海道で三連覇し、殿堂入りを果たす

### 2016年(平成28年)

- 消防署が十勝管内全域管轄広域化に。「とかち広域消防局」がスタート
- 台風10号による大雨で各河川が氾濫、町内各地域で、甚大な農業被害を受けたほか、道路の寸断や断水など町民の日常生活にも大きな被害をうける

### 2018年(平成30年)

- JR羽帶駅が廃止(開業昭和33年)
- 北海道胆振東部地震の影響で、「全道一斉大規模停電(ブラックアウト)」となり清水町も停電

### 2019年(令和元年)

- 酪農発祥120年記念シンポジウムを開催
- 御影保育所が保育所型認定こども園に移行、「御影こども園」となる

### 2020年(令和2年)

- 第一保育所・第二保育所が統合し、「しみず保育所(愛称:ぼっけ)」が開所

### 2021年(令和3年)

- 「ミライに繋ぐ“ゼロカーボンとかち清水”宣言」を表明
- 第6期清水町総合計画(R3～R12)を策定



### 2022年(令和4年)

- 開町120年を迎え、渋沢栄一ゆかりの地の関係者も招き、記念式典・シンポジウムを開催
- 「渋沢栄一ゆかりの地訪問町民ツアー」を初開催、渋沢生誕の地である埼玉県深谷市等に町民20名が視察訪問

### 2023年(令和5年)

- しみず保育所と清水幼稚園を統合し、「しみず認定こども園(愛称:ぼっけ)」として開園

移住者の増加に伴い、子どもたちの教育の必要性が高まり、1901年(明治34年)に最初の教育施設となる熊牛簡易教育所をはじめ、各地に相次いで教育所が開設されました。

畑作と木材の切り出しを中心とした町の産業が大きな転換を迎えるきっかけとなつたのが、1921年(大正10年)旧日本甜菜製糖清水工場の完成でした。冬の農閑期に農村青年が臨時工員として働くなど、雇用の場の拡大といつ面で大きな役割を果たしたのです。

また、1917年(大正6年)以降、灌漑溝の整備が進み、米づくりも盛んに行われるようになります。1930年(昭和5年)には、明治製菓清水製乳工場が本格的に操業を始め、それを機に酪農が拡大していくました。

1936年(昭和11年)1月1日、1級町村制が施行、清水町が誕生しました。この時の人口は10516人で、初代町長には菅野冬治が就任。

## 清水町誕生までの足跡

明治初年の清水町域は人舞村、芽室村、羽帶村からなっていましたが、1903年(明治36年)、人舞村に戸長宿場を設置。1907年(明治40年)には国鉄開通が進み、米づくりも盛んになりました。1915年(大正4年)に人舞村として2級村制が施行され、独立した自治体としての歩みが始まりました。

しかし、時代は戦禍へと向かっていきました。町民から多くの戦没者を出した悲惨な戦争が終わり、人々は新しい時代に向けて再び歩み始めます。

1945年(昭和20年)9月、戦後の復興が進む中、清水赤十字病院の前身である日赤清水診療所が開院し、町民の健康を守る医療機関として大切な役割を果たし始めます。

1947年(昭和22年)には現日本甜菜製糖がイースト工場として再出発を切り、1921年(大正10年)に由甜の付帯事業としてスタートした製乳工場は、1950年(昭和25年)に北海道バター・清水工場を経て、1955年(昭和30年)に雪印乳業株式会社の粉乳専門工場へと進展。1957年(昭和32年)にはアリマハム北海道工場が進出、1962年(昭和37年)にホクレンから分村していった御影村と合併し、現在とほぼ同じ区域の清水町がここから歩み始める 것입니다。

## 想いをミライに繋ぐ

元号が昭和から平成へそして令和へと移り変わり、その間、アイスアリーナや図書館・郷土史料館・保健福祉センター等の公共施設の建設、清水高等学校の総合学科への転換、市町村合併問題、町財政危機回避に向けた行財政改革、小学校の統廃合、道東自動車道の十勝清水ICから幌までの直結開通、台風による大雨災害、新型コロナウイルス感染症の流行など、日々めぐるしく変動する社会情勢の中、様々なできごとがありました。時には困難な道のりもありましたが、町民とともに手を携え、まちぐるみで歩んできました。

2022年(令和4年)、清水町は開町120年を迎えました。これまで先人が築いた歴史に学び、清水町はこれからも新たなステージに向かって、町民とともに知恵を出し合いながら住まいをもうつくりを目指していきます。

日本の復興、高度経済成長、さらに道央と道東を結ぶ幹線・白樺道路の開通などの動きと歩調を合わせるように、町も都市基盤を整え、産業の基盤を安定させていきました。その方で都市への人口流失に伴う過疎化など、様々な問題にも町は立ち向かっていくことになります。

1980年(昭和55年)に文化センターが完成、落成記念として「ベート・ヴェンの交響曲第九番二短調作品・25、合唱付き」を演奏したことは、「小さな町の大きな第九」として全国へ響きました。

## The history of Shimizu

The town of Shimizu has developed thanks to the tireless efforts of our predecessors. From the time the pioneers settled to the present, the town has faced many hardships but – with its history close to its heart – has advanced, linking its visions with the future.



## 清水町 町勢要覧

清水町役場

〒089-0192

北海道上川郡清水町南4条2丁目2番地

TEL 0156-62-2111

発行／北海道清水町 2023年3月

編集／企画課 企画統計係



清水町 公式HP



清水町 シンボルマーク  
うっちゃん